

---

# 遊戯王GX 転生者は我が道を行く

大禍時悪

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戲王GX 転生者は我が道を行く

### 【Zコード】

N8087Z

### 【作者名】

大禍時悪

### 【あらすじ】

普通の会社員であつた黄衣王真おういおうましかし通勤途中、神様のうつかりにより死んでしまう。

そんな事実を聞かされても飄々と死を受け入れる王真に神様は居た堪れなくなつたのか、お詫びとして第一の人生を歩ませようとするのだが、その人生の行き先は……遊戯王GXの世界であつた……。

製作の大禍時悪です最初に私には文才が一切ございませんしタ

クティクスも拙いにも程があるほど酷いですが、そんな事を許せる  
方はどうぞご贔屓に……オリカについてはアニメで出てきた物以外  
は使う予定はございません。

禁止制限等は9月現在の物を規定にさせていただきますが、改訂  
の度にデッキを弄つて行きたいと思います。

## プロローグ

「ここにちは、黄衣王真です。何故皆さんに挨拶しているのかと言つと、只今絶賛死亡中です

幽体離脱的な事になつて、います感ひく自分である「血まみれで首が無く臓物が飛び出してミンチになつて、います。

凄惨な状況だねこれ、自分の体だと想いたくないねでもまあ諦めるしかいり、だつて自分の頭が向こうの方に転がつてゐんだもの、あ……俺の原付が高かつたのにフレーム粉々じゃん。や、もう乗れないから別にいいといえばいいけど……。そんなことより凄いね吸水コンクリート、俺の身体から流れ出る血液がどんどん吸収されるよもうすぐ失血するんじやないかな？ や、もう死んでるから失血しても問題はないんだけどね。

「あ～モノローグの途中で申し訳ないのだが……ちょっといいかい？」

気付かなかつたけど、この間にか白髪で白髪のお爺さんがいらっしゃいました。ああお爺さんと申つても俺のお祖父さんじゃないよ

「ああ、はいなんじょつ？ て言つた何故に俺の姿見えてんのか死んでるはずだよね俺」

「うん間違ひなく死んでるよ、だつてワシが間違つて殺しちやつたし」

「あれ？ じゃあもしかして俺を挽いた10トントラックの運転やんなの？」

「何でその方向に考えが行くのかとても疑問だし第一にひくの漢字を間違てる気がするのだがの？……といひでワシが神様じゃ」と言つたらどう反応してくれる？」

「神様？ がそりこりと王真はジッと神様？ を見つめてからふむふむと少しひくなくく。

「ああスミマセン神様つて皆の想像した通りの長い白髪の老人なんだと、今しみじみと思つてました死んでからこんな体験が出来るとはちょっとしたラッキーですね」

「死んだのにラッキーってこりゃ君は変わってるねえ」

神様は若干引き気味でなおのぼると王真に対して言つた。

「ああ気にしませんよ変わつてるつてよく言われますし。それで神様が俺を殺したつてどうことだ？」

「その事なんじゃがな、今日死んでしまう人間にチェックをつけていくんじゃけれどもね、ちょっとうとうとしてて間違えて君の名前にチェックうつちやつたんじゃよ少なくとも後60年は生きるはずじゃつたのだけれども……」

「神様はちょっと氣まずいひつけつけをチラチラ見ているが王真は気にせず！」。

「ああ……まあ仕方ないですよ誰しも間違いはありますし気にしませんよ、てことは俺つて地獄に行つたりするの？ お世辞にも天国に行けるような良いことなんて全くやつてないんだけじゃ」

「加害者のワシが言つのもなんのじやがまづは怒つたりはしないのかい？ それに目をつけたところが違いすぎないかの、普通なら残りの寿命の分のじうするんだとか、まだやり残した事があると憤りをぶつけてくるのにのう君は随分ドライなんじやな」

「ドライ……と言つべきなのか単純に今現在こうして死んでこるので受け止めるしかないと言つかなんと言つか」

王真は若干戸惑いながらも答えるが表情は笑つてはいる、正直薄々気付いてはこる自分が同じ年頃の人よりも冷めた事しか考えれないことくらいは。

「じゃあ聞いてみようかな？俺の寿命おおよそ60年じります？ まあ生き返れる訳では無いですね、ほら元の体は首が飛んで臓物が挽き肉みたいにミンチになつてるし」

「ああその事なんじやがの生き返る……すなわち転生じやな、この世界に転生するのはまず不可能じやな。死んだ人間の情報を引き継いだ人間を作るどじやないいくつかの矛盾が生じてしまつのじよ詳しくは秘密じやがな、しかし……別の世界なら可能じやな存在しないものを一から作るだけじやからな」

なんか一から作るだけとがものす」ことを言つてゐるけど多分神様だからできるんだろう。

「別世界と言うとパラレルワールド的なもののかなそれならそれ

で……」

「ふむ……それでもよいが辛いのはお前さんじゃぞ自分は知つても相手は知らんからのつ……とにかく君はアニメやゲームは好きかの？」

「ええまあ人並みには好きですね」「こかんとは思ったのじゃが少し記憶を見せてもらつたが遊戯王とこうアーメをよく見てるようじやな」

「まあ好きですねでも勝手に記憶みんなや神さんよ……遊戯王かいですね世界としてはGXの世界がいいですけど決めるのは神様ですけどね」

「いやいや構わないよ出来る限りの我儘は聞いてあげるつもりじゃよ」

「ああそれではとりあえず運動能力と頭脳はある程度もらえると嬉しいですね、今まで出たカードを各10枚づつ現時点の俺のデッキとこれから出るカードを発売日に各10枚づつもらえると嬉しいですね。」

「ふむそれくらいなら全て叶えられそうじゃ わい遊戯王GXの世界の一一番最初入学試験の一週間前に田を覚まさせるようにしそう、その世界の前情報を脳の中に突っ込んでおくからの後は困つた時は連絡できるようにしておこう正し無茶なお願いは禁止じゃよ……すぐに転生を始めるそれでは良い第一の人生を」

「ちょっとタンマ最後に一つ何かり向ままでりがとうございましたまたいざれ声を聞くと思います」

そして俺の黄衣王真は第一の人生を遊戯王GXの世界にて始めることがになった。

## デュエルアカデミア入学試験

おはようございます、黄衣王真です。今日覚めましたと言つても意識的な意味ですけどね、転生らしいと言えばそうですね生まれるところから始まりました。

しかし生まれたのは俺ではなく、俺の性格から趣向までまるまる模倣した俺らしい。ただし転生の事は一切知らないみたいだが……つまり自分の行動を別の人として見てる感覺だね。

そして時は経ち神様の宣言通りデュエルアカデミア入学試験一週間前に本体と意識が合体した様です、携帯を確認すると家族のアドレスとさりげなく神様の連絡先も登録されていた。すかさず神様にコールする。

「おはよう神様一生味わえないとてつもなく気持ち悪い体験をありがとうクソッタレ」

そして返事も待たずに通話を切るこの日に神様からの贈り物が届いていた。デッキを取り中を確認した後デュエルディスクを装着エクシーズモンスターとシンクロモンスターが反応するかを確認する、勿論揃える所から、見事成功しかも原作アニメと同じエフェクトまでついてスッゴい派手ゾクゾクしたね。ただあまり広くない自分の部屋でエクシーズ召喚したため家がかなり揺れた。興奮してたからそんなことにも気付かなかつたが家族が俺の部屋を扉の隙間から覗いていたのを。

「おはよう兄さん姉さん驚いた?ごめんねちょっとテンションが有頂天に……ね」

とりあえず兄姉を部屋の外に閉め出して着替えてから台所に立ち食事の用意、用意していると兄が一人と姉が三人いつの間にかテープルついている。黄衣家の名前には皆王の漢字がつきます、末っ子の王真こと俺、長男の王我兄さん長女の王華姉さん次女の王姫姉さん、三女の王世姉さんみんな仲の良い兄たちですが皆ブランですどうしてこうなったのだろうか。まあそれを差し引いても良い兄たちですが。

「王真、トースト一枚ねチーズのつけてね」

「王真ちゃん飯とお味噌汁を」

「王真ちゃんシリアルと牛乳はまだなの」

「王世姉さんオーブンの中にあるから王姫姉さん、よそつてあるから持つていって王華姉さんもね王我兄さ……」

「大丈夫だ王真私は自分で用意したしかしな王真……朝からチャーハンはないんじゃないかな」

「いいじゃないか昨日のが余つてて勿体ないんだから」

そう姉さん達の食事を用意しつつチャーハンを作っていた、なんで姉さん達は俺に頼りきりなんだろかデュエルアカデミアへの入学が確定したら姉さんはどうするんだろか。

「ところで王真、入試の方は大丈夫なのか？確かに受験番号は111番じやなかつたか？私たちの弟だからなんの問題も無いとは思うがな」

「兄さんその話は止めてくれ考へてる途中で寝ちゃったんだよ、それに買い被りすぎだよ何とかなるとは思つてゐけどね」

そんな他愛もない話をしながら一週間は過ぎてゆく、と言つても兄さんや姉さんに試験用の「トック」のテストをしてもらつてたんだけどね。

そして試験当田。

「だあああやつけんなコンチクシヨウ」

そつ叫びながらローラーブレーンで自転車も絶句するほどスピーデで疾駆するそつしないと非常にまずこし怒りのやつビコロも無い。

「かくしょうなんで事故んだよ仕方ないけどさー事故起こした奴犬に躊躇まろホントにー！」

電車の事故今思えばたしか主人公の十代も事故で遅れたはずだそれを覚えていないのは自分の落ち度だ仕方がない。10分程走ると受け付けが見える、階段を飛び越え叫ぶ。

「「あつたあああ」」

誰かと声が被るだが王真は知つてゐるので気にしない。

「受験番号1-1-0遊城十代セーフだよね？」

「受験番号1-1-1黄衣王真まだ間に合いますよねー」

ほぼ同時に言い放ち十代が「あらを向く、それが俺と十代のファー

ストコンタクトだった。

「お前も遅れたのか俺は遊城十代よろしくな」

「ああ電車が遅れてな全速力でこいつに来たのを俺は黄衣王真ようしくな十代とりあえずさつと行ひにこれ以上遅れるとまずい気がするからな」

.....

「おおやつてゐやつてゐ」

「試験中だからな……見たところ一桁台の連中だな」

見下げると珍しい白Tシャツ姿の三沢がブラッドウォルスに破壊輪を発動し勝利を収めた瞬間だった。

「あの一番見事なコンボだつたな」

十代が独り言の様に呟く王真が反論しようとしたら十代の隣の水色が言った。

「やつややつやつて試験番号一番つまり筆記試験第一位の三沢君だよ」

「むう……あれだけでコンボと言つのか、ただトライアップを使つただけじゃないか」

「複数のカードを組み合わせて使用するのがコンボじゃないか」

「せうこつ解釈にしておへよ十代

「君たちも受験生？受験番号は？

「ああ俺は一10番」  
「ああ俺は111番だ」

「でも百番台の『ル』エルは一組目どつくに終わってるよ

「おこおこマジかよ水色受け付けでもセーフだつたんだぜ理由も理由だ受けれるだろつ」

『受験番号』110番遊城十代君

「よし俺の番だ」

意氣揚々と階段を降りて行く十代そんな背中に向となくで声をかける。

「十代、頑張れよ」

「おひ任せとけ」

「全く俺はおまえに何を任せたんだつつの  
「ねえ君さつきの人と知り合い？」

「いや今さつあ出合つたばかりだぞ水色頭」

「わつきから水色水色つて僕の名前は丸藤翔だよ」

「おつとすまない名前がわからんから身体的特徴がそれしかなかつたんだ重ねてすまんな翔」

「いやそんなには怒つてないからこよそれより君はいいの?」

「いい?何がだ?デュエルなら十代の次にできるだろひか惑らくはクロノス教諭のアンティーグニアデッキだろつわ」

ふむ流石はソリッド・ヴィジョンだ古代の機械巨人のプレッシャーが半端じやねえな泣く子が余計に泣きそつだな……お、フェザーマン殴り飛ばしたな。

アンティーグニア・ゴーレム

会場を見ると邪心トークンをリリースして古代の機械巨人をアドバанс召喚している所だった。

「ヤバイな貫通のせいでライフが半分持つてかれたな次教諭がモンスター引いたら終わるな」

「そんな撃破りモンスターじゃないか!」

「撃破りなあ……まあああいづやつがこじんなどじりで終わる訳がだるつわ」

そつ王真が言うと翔がこれでもかと言わんばかりに反論していく。

「攻撃力3000に魔法、トライップも使えないそれに貫通持ちだよ無理に決まつてる攻撃力3000を越えるモンスターなんてそう簡単に出せるもんか!勝てるわけないよ」

「……そう声を荒立てんな何も完全に使えないわけじゃないダメージステップまでだ。モンスター効果までは防げない効果で潰せばいいそれにまだアイツは諦めた訳じゃないと見てりやわかる何とかするさ」

ビルの上に立つフレイムウイングマンが炎を纏つて古代の機械巨人に突っ込み見事に勝利、崩れ落ちる巨人の残骸に潰される教諭。

「ホントに何とかしちゃった」

「だろ?だから言つたじやないか何とかするつてさ」

「ようお疲れさん良いドローを見せてもらひつたよ」

「王真見ててくれたか俺のデュエルをさ」

『受験番号1-1-1番黄衣王真君』

「ああしつかりとな……さて俺の出番だなそつそつ面白い物を見せやるからしつかり見てろよ」

と言ひ王真会場に向かいながら後ろに手を振る、ディスクについているデッキを取り確認するととある事に気がついた。

やべえデッキ間違えたエクシーズデッキを使つ予定だつたのにあらうことか試作デッキ持つて来ちまつた。前世ではある程度戦えるレベルまではいけているがまだまだ勝率が心許ないだがライフ4000だ8000じゃないけるはずだ。

「二人目のドロップアウトボイのーネ今度こそ叩き潰して差し

「上げる／ノテス」

「叩き潰せるならどうぞただし俺はなかなかやるぜっ！」

「減らす口を叩けるの～も今の内です～」

それを聞き王真はニヤリと笑いティスクにデッキをセットそして展開教諭はそのままデッキをシャッフルしているアンティーグリアのままで来るらしい

「さあデュエルだ」

「私のターンドロー一コ手札からテラ・フォーミングを発動その効果により、歯車街を手札に加えそのまま発動するの～ネ」

まずい歯車街が入つてやがるのか昔のカードだから完全になめてたそれにリアル的にも歯車街はアニメが終わつてから出たはずだ。

テラ・フォーミング 通常魔法

自分のデッキからファイールド魔法カード一枚を手札に加える。

歯車街 フィールド魔法。

「アンティーグ・ギア」と名のついたモンスターを召喚する場合に必要なリリースを1体少なくする事ができる。

このカードが破壊され墓地に送られた時、自分の手札・デッキ・墓地から「アンティーグ・ギア」と名のついたモンスターを1体特殊召喚する事ができる。

「更に古代の機械獣を攻撃表示で召喚なの～ネ」

古代の機械獣 効果モンスター

攻2000／守2000

このカードは特殊召喚出来ない。

このカードが戦闘によって破壊した相手効果モンスターの効果は無効化される。このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。

「まだまだ終わらないの～ネフィールド魔法セット。セットしたことにより、歯車街を破壊され効果発動手札から古代の機械巨竜を特殊召喚するの～ネ」

古代の機械巨竜 効果モンスター

攻3000／守2000

このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。他の効果は使えないで割愛。

「セットされていい～ル歯車街を発動してターンエンドです～ノ」

クロノス ライフ4000

フィールド歯車街

モンスター2機械獣、機械巨竜

魔法・罠、無し

「よし俺のターンドローー」

「俺はレッドガジェットを攻撃表示で召喚するの」

レッドガジェット 効果モンスター。

星4 攻1300／守1500

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、デッキから「イエロー ガジェット」を手札に加えることができる。

「更に融合を発動、手札のイエローガジェットとヴォルカーック・バレットを融合し重爆撃禽ボム・フェネクスを融合召喚」

「ボム・フェネクス？聞いたことのないモンスターなの～ネしかし攻撃力2800では我が古代の機械巨龍には叶わないの～ネ」

### 融合 通常魔法

手札・自分フィールド上から、融合モンスター1カードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。

「そ、うなんだ……まあすぐにわかりますよつと、さあ派手にいこうぜ重爆撃禽ボム・フェネクスの効果発動、1ターンに一度このカードの攻撃権を放棄してフィールド上のカード一枚につき300ポイントのダメージを与える。教諭の場にはモンスターが2体と歯車街、俺の場にはモンスターが2体よつて1500ポイントのダメージを与える！」

重爆撃禽 ボム・フェネクス 融合・効果モンスター

星8 攻2800／守2300

機械族モンスター + 炎族モンスター

自分のメインフェイズ時、フィールド上に存在するカード1枚につき300ポイントダメージを相手ライフに与える事ができる。

この効果を発動するターンこのカードは攻撃する事ができない。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「マンマ!!~ヤー!!

クロノス ライフ4000 2500

「更に手札から融合回収を発動、墓地の融合ヒュローガジェットを手札に加える」

融合回収 通常魔法

自分の墓地に存在する「融合」魔法カード1枚と、融合に使用した融合素材モンスター1体を手札に加える。

「準備は整つたさあもうじつちょ派手にいづけ。手札からもう一度融合を発動手札のイエローガジェットとフィールドのボム・フェネクスを融合」

そうすると会場がざわざわし始める、『せっかく出した融合モンスターを…』『ここまで来てプレイングミスかよ』『何が出てくるんだワクワクするわ』『どうこうことなんだ…』

「ハ!!~う事だ現れよ融合召喚全てを燃やせ起爆獣ヴァルカノン!!

「攻撃力2300……先ほどのモンスターの方が攻撃力は上そんなモンスターでどうするつもりなの~ネ?」

若干王真はイラッとした効果を知らないのは仕方がないただ全ての価値を攻撃力で判断するのに苛立ちを覚えた。

「攻撃力ばかりが全てじゃねえさ効果も考慮して有用性を見つけ出すそれが楽しいんじゃねえかよヴァルカノンの効果発動、融合召喚に成功した時、こいつと相手モンスターを破壊その攻撃力分のダメージを『与える！』

起爆獣ヴァルカノン 融合・効果モンスター

星6 攻2300／守1600

機械族モンスター+炎族モンスター

このカードが融合召喚に成功した時、相手フィールド上に存在するモンスター1体を選択して発動することができる。

選択した相手モンスターとこのカードを破壊して墓地へ送る。その後、墓地へ送られた相手モンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに『与える。

「さあ崩れる機械巨竜！ヴァルカノンと共にクライシス・ブلاスト！」

ヴァルカノンが機械巨竜に突撃して機械巨竜にしがみつく機械巨竜が必死に振りほどこうとするがヴァルカノンは離れないそしてヴァルカノンが大爆発、機械巨竜が爆発と共に崩れ落ちクロノス教諭を押し潰す。

クロノス ライフ2500 - 500

「イエス！」

王真は拳をつきだし真上に掲げ叫ぶ。

「あり得ないの〜ネドロップアウトボーリーに一回も敗北するなんて

「これはわざと何かの間違いなの〜か夢なの〜ネ」

「あら得ないなんて」とはないどんな事にも可能性があるやの可能性を引き当てただけだ」

「すまんな十代面白い物を見せられなくてデッキを間違えたんだ」

ゆづくり歩いて十代と翔のもとに近くには座つた白ラン姿の三沢もいた。

「いや随分面白かったユエルだつたよ、融合モンスターを使い更なる融合モンスターを繰り出す戦術……」

「横から話しかけんな白ラン、まあ普段はあんな事はしないぞ、あの状況ならあがが最善の策だつたからな」

「こや、一番の通り面白かったユエルだつたぜこの後俺とユエルじよひばる真！」

「わざと言つただろ？持つてくる『テッキを間違えたんだつて持つてくる予定の『テッキならいくらでも相手をしてやりたいがな……それと十代一番つてのはどうこうことだ？三沢の事だろ一番は、は……まあ自分の事だとは思うがな」

「わかる？」

「お前がそんな事をしてんだよくわかるよな翔

「僕にふらないでよでもあの自信羨ましいな」

「ハツハツハ見るからに自信無さそまだからな自信なんか気にすんなさ俺だつて試作デッキで自信なんか皆無のヒヤヒヤもんだったぞ」

「「「あれで試作デッキ！（なの）」」」

「あ？ ああまだ火力が若干足りないし回りも悪い、中枢のカードが来なければそれこそ負け一直線だライフ4000なんぞ塵に等しいからな」

「ライフ4000が塵だつて？ 一体どんなデュエルをしてきたんだ？」

三沢がかなり驚いた表情でこちらを見るそんなにおかしいか確かにこちらではライフ4000が普通だが……

「ふむ……普通にライフが一瞬で持つてかれる事なんてザラにあるそれとせつきの状態からフェネクスをもう一体追加してもそのターンで空にされるしなまあそんなデッキばかりじゃないが……その手のデッキがかなり多いそういうデッキの相手をさせていたしな。」

「まさかそんなデュエルばかりとは……あれで試作でも頷ける」

「試作デッキだがもう少し弄らないと完成しないせこいつとやりたいならまたいすれな……十代、アカデミアでなら本来のデッキを使つてやるじやあなアカデミア会おう十代、翔」

「俺もいるぞ！」

そんな三沢のツッコミをスルーしつつ後ろに向かって手を振る……家に戻ると兄さん姉さんが氣の早い合格パーティの準備をしてい

る所を発見し手で顔を覆い溜め息をついた。

## デュエルアカデミア入学試験（後書き）

どうもこんにちは、大禍時悪です始めてのデュエルシーンでしたがどうでしようカードの説明は邪魔じゃ無いですかね次に少し別の形をとつてみます。

次回予告

アカデミアについて俺達入試の時の約束の為にデュエルフィールドに行くと万丈目に因縁をつけられる。

次回遊戯王GX転生者は我が道を行くアンティークデュエル激突十代VS万丈目……あれ、俺が主人公だよな？お楽しみに

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8087z/>

---

遊戯王GX 転生者は我が道を行く

2011年12月29日21時49分発行